

# 探Q NEWS

探究進学科・文科・理科の活動を発信します

Vol.5

## 「仁愛大学主催 高校生課題研究

Vol.5.

R3.8.23

### ワークショップ参加」

7月31日(土)に、仁愛大学にて、「高校生課題研究ワークショップ」が開催され、本校(探究科1・2年約50名)、鯖江高校、武生東高校から約100名が参加し、課題研究を進める上での工夫や留意点について、交流しながら、理解を深めていくという活動に取り組みました。

〔当日の日程〕

- |             |  |
|-------------|--|
| 9:00~9:10   | オリエンテーション                                      |
| 9:10~10:05  | 「問いの立て方・テーマ設定について」<br>人間生活学部子ども教育学科 准教授 高野秀晴先生 |
| 10:10~11:05 | 「調査方法に関する技」<br>人間学部コミュニケーション学科 准教授 織田暁子先生      |
| 11:10~12:05 | 「課題研究の意義・発表・その他」<br>人間生活学部子ども教育学科 教授 西出和彦先生    |
| 12:10~12:20 | 振り返り・まとめ                                       |

他校の生徒とグループになり交流しながら考えるというスタイルということもあり、最初こそ緊張した面持ちの生徒たちでしたが、最後のセッションでポスターを仕上げるときのスピード感、まとめる速さ、持ち前のコミュニケーション力の高さには圧倒されました。2年生の生徒が、帰り際に「みんな優秀だったー。」と口を揃えていたのが印象的でした。後日、短時間で完成したポスターを見て、その能力の高さに教員たちも感心しました。課題研究は奥が深く、試行錯誤の繰り返しなのですが、その過程で得るものは必ずあり、それが何なのかを明確にすることも大事だと思っています。それが熱意なのか、探究心なのか、協調性なのか、ひとそれぞれ



(当日の様子。仁愛大学のカフェにて)



(今日の学びをポスターに。他校生徒との話し合いは緊張するけど刺激的です。)

れで異なるものなのですが、自分が「面白い！」と思うことに出会えることは大事な要素のひとつだと思います。今回のワークショップで学んだことを、2学期以降の学びに生かしていきましょう。



#### 〔生徒の感想〕

・良い問いを作るのが1番大事だと改めてわかりました。アンケート調査などはコストがかかるので、良くないということを初めて知りびっくりしました。レポートを作るときに、図やイラストを有効活用したり、文字数をなるべく減らして分かりやすく書いたりするなど、大事なことを学べました。結果を、自分で分析して考察し結論づけることが大事だとわかりました。



・今回のワークショップで、問いの立て方がとても印象に残った。僕は大きな問いを立てて研究しようと思って、悩んでいたけど、細かく問いを立てることで研究しやすいということが分かった。調査の面では、実際にアンケート用紙を使って良くない点を探していくことで何を違うのがよくわかった。自分の今までのアンケートなど思い出してみると、今回学んだダブルバーレル質問になっていたり、網羅性がなかったりするものがあつたなと思った。このことは、課題研究だけではなく様々なことに活かしていきたい。発表の面では、人に伝わりやすくするにはどうすればいいかが学べた。前回学んだことで、課題研究は発表して人に伝えるまでが課題研究なので、発表できる機会があれば活かしたいと思った。



・1番印象に残っているのは、問いの立て方で、カレーの例のように単純な問いが、改善することでちゃんとテーマになっていて、こうやってテーマを立てるんだなと思いました。テーマの不安が少し減りました。今回のワークショップで学んだ課題研究の意義は、正しい調査方法で問いに対する答えを導き出す力を身につけることだと思うので、これを意識しながら課題研究に取り組みたいです。